

日本の私たちと今世界で「大豆」をめぐる起こっていること

ーアグリビジネスによる油糧・飼料作物栽培の環境・社会的影響と住民の抵抗



2018.11.20(火)18:00—20:00

会場:聖心女子大学4号館/聖心グローバルプラザ(元JICA地球ひろば) 4-2教室

定員:60名

資料代等:1,000円(学生無料)

お申込み:下記のサイトで11月14日(水)までにお申込みの上、直接会場にお越し下さい。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/fd8113d5591586>

※お問い合わせ:モザンビーク開発を考える市民の会 office@mozambiquekaihatu.net

※言語:日本語・ポルトガル語(同時通訳付き)



私たちの暮らしに欠かせない「大豆」。実は、世界で生産されている「大豆」の大半は、油と飼料として使用されています。その多くが遺伝子組み換えのものとなっており、工業的な大量生産のため、広大な農地でモノカルチャー(単一作物)栽培が行われています。大豆は油ヤシとともに「油糧作物」と呼ばれ、その栽培にあたっては、多くの企業が、世界中で森林伐採や土地収奪などを行っており、環境面でも社会面でも深刻な影響をもたらしています。

世界に先駆けてこの現象に警鐘を鳴らしてきた国際NGO-GRAINは、この問題に、世界のコミュニティとともに取り組んできました。とくに、油ヤシ栽培が急速に広がる中央・西アフリカで、被害コミュニティや女性が他の女性に出会うことで、互いに課題や戦略を学び合い、共通のキャンペーンを形成する運動を支援してきました。今回のイベントでは以上の活動成果を紹介するとともに、来年度の成果報告会に向けた事前学習の機会としたいと思います。そこで、今年度は、GRAINのパートナーの専門家や市民団体を招き、まずは日本との関係の深い「大豆」をめぐる世界で何が起きているのか、その主要な生産地であるブラジル・セラードの地域社会で何が起きているのかを、コミュニティの側から紹介することで、広い層の皆さまに「油糧作物栽培」の問題に関心を持っていただく機会にできればと考えています。

【プログラム】

18:00-18:05 開催趣旨「GRAINの取り組みと本イベントの趣旨」

(渡辺直子 日本国際ボランティアセンター)

18:05-18:20 報告1「日本の私たちと世界の大豆」

(平賀緑 立命館大学非常勤講師)

18:20-18:45 報告2「グローバルな油糧作物栽培の過去と現在」

(ジアナ・アギアル リオ連邦大学大学院/FASE)

18:45-18:55 質疑応答

18:55-19:20 報告3「ブラジル・セラードにおける環境・社会的影響と住民の抵抗」

(イゾレッチ・ウイシニエスキー セラードを守る全国キャンペーン)

19:20-19:30 質疑応答

19:30-19:55 ディスカッション

「日本ができること/してはいけないこと？」

(モデレーター:印籠智哉 日本の種子(たね)を守る会)

19:55-20:00 閉会挨拶

【主催】国際NGO-GRAIN

【共催】(特活)日本国際ボランティアセンター

3カ国民衆会議実行委員会、

聖心女子大学グローバル共生研究所、グロー

バル・フードシステムを考える市民グループ

【協力】モザンビーク開発を考える市民の会

【助成】地球環境基金

(西・中央アフリカにおける油ヤシ・プランテーション産業拡大

に対応するためのコミュニティ能力強化と地域プラット

フォームの形成)

*「土地収奪」に関しては、GRAINが運営する下記サイトをご覧ください。

<https://www.farmlandgrab.org> (多言語サイト)

<http://farmlandgrab.blog.fc2.com/> (日本語サイト)

*日本・モザンビーク・ブラジルの市民社会による「3カ国民衆会議」については、こちらをご覧ください。

<http://triangular2018.blog.fc2.com/>



【登壇者】



■渡辺直子(日本国際ボランティアセンター)
南アフリカ事業担当/地域開発グループマネージャー。2012年より日本がブラジルとモザンビークで進めるODA農業開発事業「プロサバンナ」や土地収奪問題の現地調査に従事。2016年度より、GRAINの事業の日本との橋渡し役として、西・中央アフリカでのランドグラブ問題にも関わる。



■平賀緑(立命館大学非常勤講師)
ロンドン市立大学(食料栄養政策学修士)取得。京都大学大学院で農業・食料の国際政治経済学を学ぶ(経済学博士)。現在、立命館大学の非常勤講師のほか、京都大学経済学研究科経済資料センター研究員。



■ジアナ・アギアール(リオ連邦大学大学院/FASE)
リオ連邦大学の都市・地域計画研究科博士課程に在籍(国際関係学修士)。アグリビジネスのための貿易回廊開発の研究を行う。ブラジルNGOの連合組織であるFASE(社会・教育支援団体連盟)の国際部門アドバイザー。2012年から2015年まで、トランスナショナル研究所(TNI、アムステルダム)研究員。本年、EU議会にて、油糧作物栽培の問題に関する講演を行った。



■イソレッチ・ウシニエスキー(セラードを守る全国キャンペーン/ CPT)
エコノミスト(ゴイアス・カトリック大学)。2005年、ゴイアス州のカトリック土地司牧委員会(CPT)のリージョナル・コーディネーターに就任。2009年にCPTの全国コーディネーターに選出。「セラードを守る全国キャンペーン」のコーディネーターを兼任。本年、ニューヨーク市立大学にて、セラード地域の住民が直面する土地収奪と環境破壊の問題を講義。



■伊藤 智哉(日本の種子(たね)を守る会事務局アドバイザー)
アジア太平洋資料センター(PARC)、ブラジル社会経済分析研究所(IBASE)、オルター・トレード・ジャパン政策室室長を経て、現在はフリーの立場で世界の食と農の問題を追う。ドキュメンタリー映画『遺伝子組み換えルーレット』、『種子—みんなのもの?』日本語版企画・監訳。

【お問い合わせ先】モザンビーク開発を考える市民の会 <http://mozambiquekaihatsu.blog.fc2.com/>
office@mozambiquekaihatsu.net (小出・向井)